

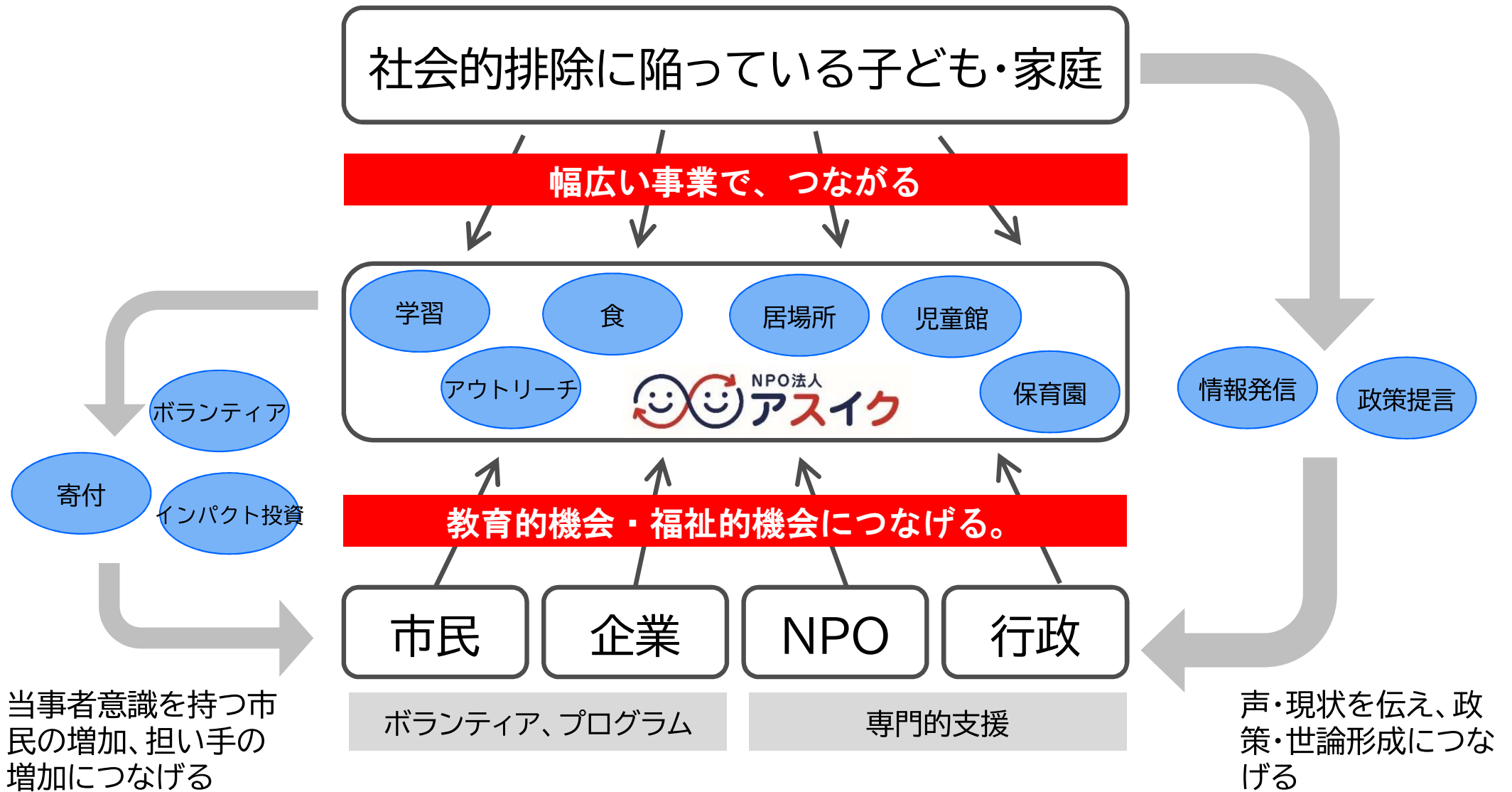
# 2020年度（第10期）事業報告書

（2020年4月～2021年3月）



# 事業コンセプト（分断をつなぐ、成熟社会のインフラになる。）

- 社会的排除に陥っている子ども・家庭を、さまざまな事業（入口）を通して社会資源と結びつけ、教育的機会、福祉的機会を提供すると同時に、社会の当事者意識を醸成することで社会資源を増幅していく。



ハイライト

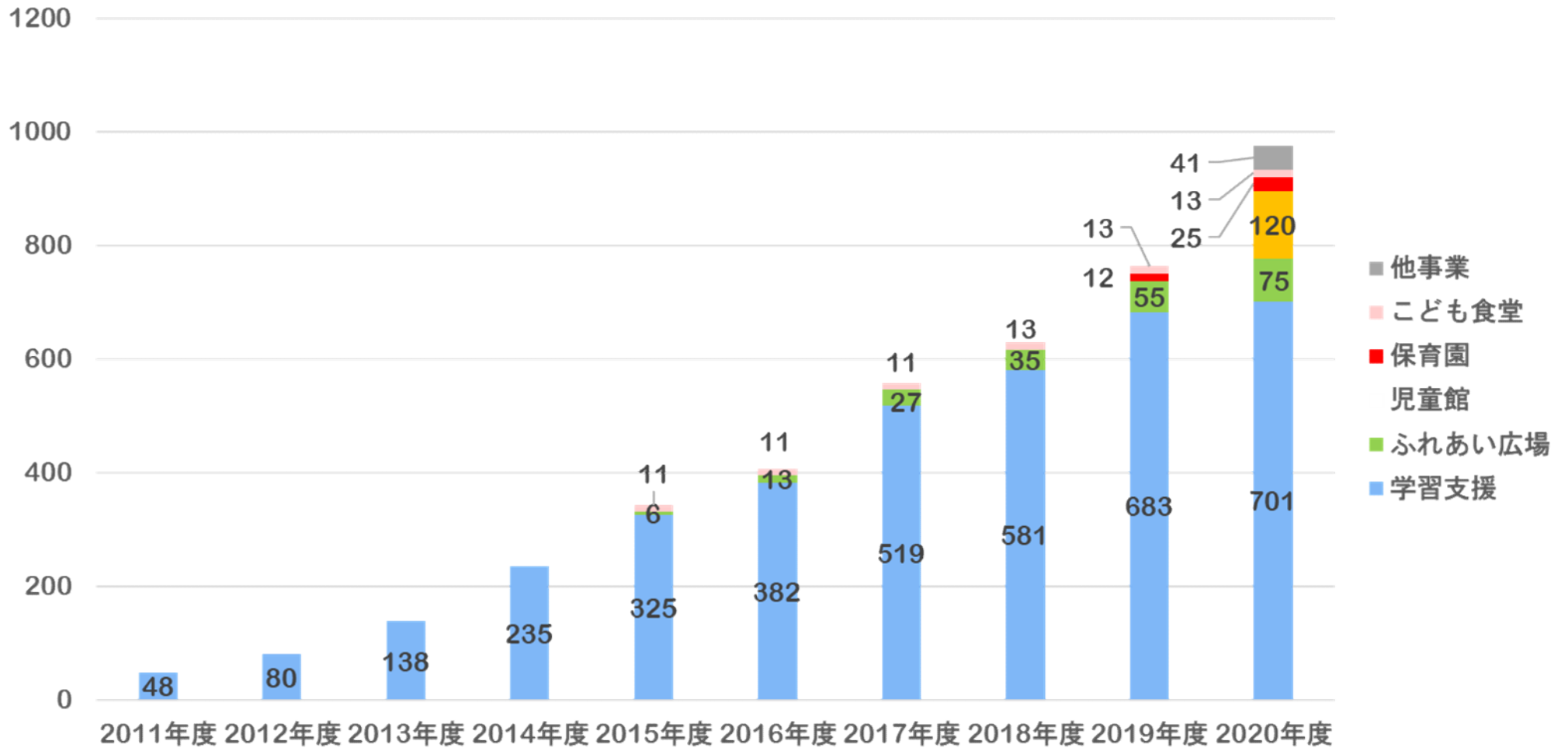
---

- ・ 幼少期からの見守り強化として、アスイク保育園薬師堂前、荒井児童館を運営開始した。
- ・ また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、既存の学習・生活支援事業を核として、食料支援、アウトリーチ、オンライン学習支援などに派生させた結果、既存事業の進化につなげることができた。

事業領域	事業名	変更点等
スタートライン事業	アスイク保育園(宮城野通駅前)	
	アスイク保育園(薬師堂前)	・ 新規事業
	仙台市荒井児童館	・ 新規事業
セーフティネット事業	仙台市学習・生活サポート事業	
	仙台市中途退学未然防止等事業	・ 体制拡大
	岩沼市子どもの学習・生活支援事業	
	宮城県子どもの学習支援事業(南部・北部圏域)	
	白石市子どもの学習等支援事業	
	オンライン学習支援	・ コロナ対応として実施
	ふれあい広場サテライト	・ 開催回数拡充
	多賀城こども食堂	・ コロナ対応で食品提供形式に変更
	食料支援×見守りプロジェクト	・ コロナ対応として実施
	フードバンクプラアス	・ 新規事業(見守りプロジェクトの後継。今年度は上記食料支援×見守りプロジェクトとして実施)
	要保護児童等見守り強化事業(わくデリ)	・ 新規事業
緊急支援金	・ 2/13福島県沖地震を受け緊急実施	
ワーク&ライフ事業	(仮称)アスイクインパクト投資 ※準備中	

# 受益者数の推移

- ・ 児童クラブ、わくデリ等の実施により、当法人の事業に参加している子どもの数は過去最高の975人となった。

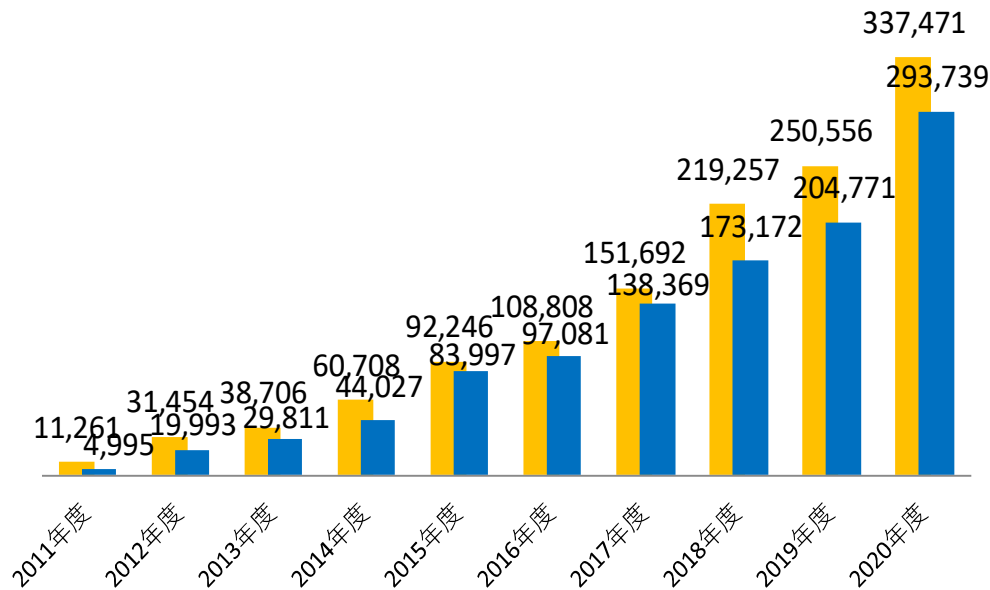


# 収支・収益構造の推移

年々事業規模は拡大を続けているが、財務面での健全性も維持している。

### 収支の推移（千円）

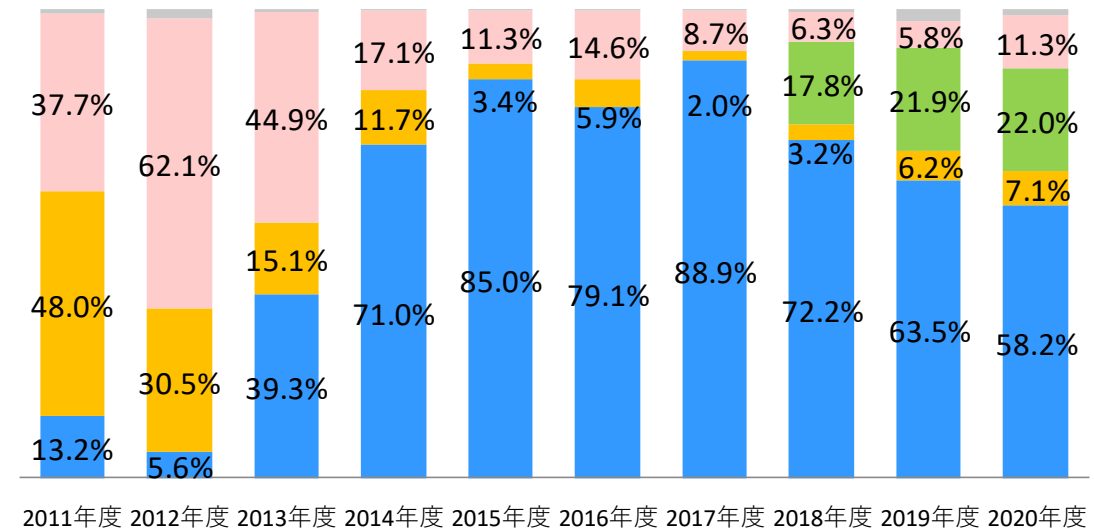
■ 収入 ■ 支出



✓ 収入は対前年度比134%で過去最大の予算規模となった。

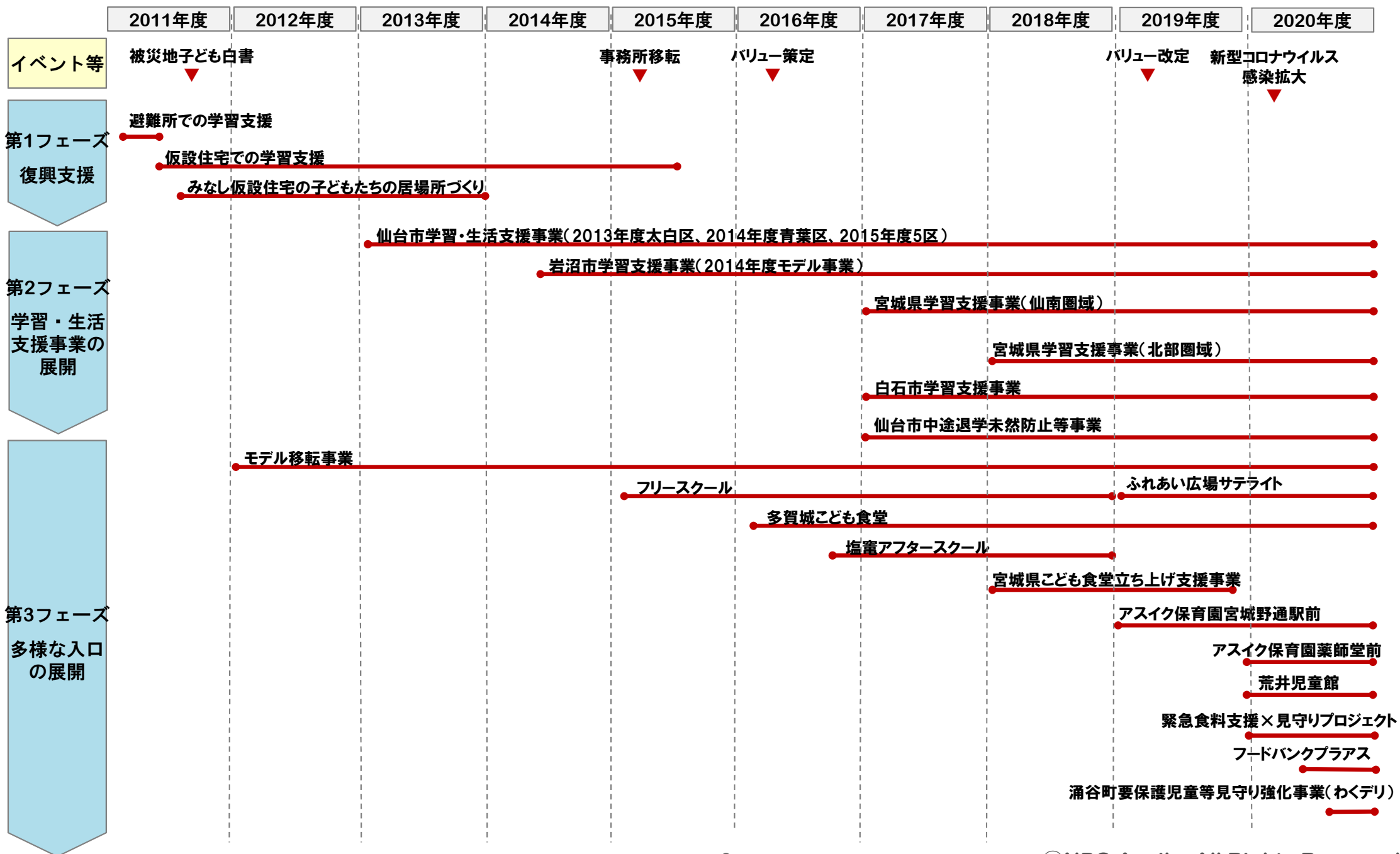
### 収益構造の推移

■ 事業収入 ■ 寄付金 ■ 補助金 ■ 助成金 ■ 会費・その他



✓ 緊急食料支援・見守り事業の実施により、助成金・寄付金比率が上昇した。

# 参考：事業の変遷



## 事業詳細

---

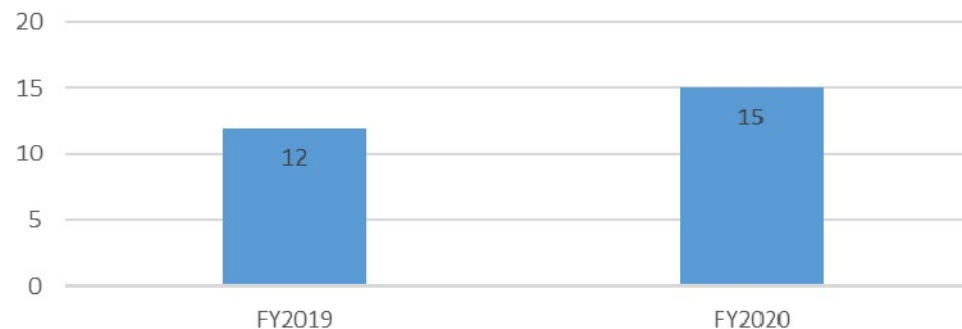


- 19名の定員に対して、年度末の登録園児数は15名となり、開園から順調に登録園児数が伸びている。
- 顧客満足度も良好な状態である。

## 保育目標

保育理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な関係性の中で、子どもを育む。</li> <li>○子どもの最善の利益を尊重し、改善し続ける。</li> <li>○子どもだけではなく、家庭も支える。</li> </ul>
保育方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一律的なかわりではなく、発達過程に応じた個別対応をします。</li> <li>○子どもの安全・快適な環境づくりに努めます。</li> <li>○子どもをありのままに受容し、自尊心の醸成に努めます。</li> <li>○様々な人とのかわりの中で、子どもの社会性を育みます。</li> <li>○様々な物事への興味、感受性、表現力を育みます。</li> </ul>

## 登録園児推移



## 利用者満足度調査

### 集計単位

アスイク保育園 宮城野通駅前園

### <読み方の注意点>

- ・ 得点の高い低いだけを見るのではなく、数字が表している状況を考えて読んでください。
- ・ 領域平均は、各領域に紐づく要素の得点を平均した数字です。
- ・ 各要素の得点は、回答者の回答（1～5）の平均です。3.5以上：緑、4.0以上：青、2.5以下：赤に色付けされています。

### 領域平均

	当該集計単位	全社	全社との比較
(回答者数)	11	65	
職員の対応	4.7	4.5	0.2
運営内容	4.7	4.5	0.2
総合満足度	4.5	4.4	0.2

### 項目得点

領域	No.	要素	設問	当該集計単位	全社	全社との比較
職員の対応	1	マナー	職員のあいさつや言葉遣いなどのマナーはきちんとしていた	4.7	4.7	0.0
	2	関係構築	職員は、保護者が気軽に相談しやすい関係をつくっていた	4.7	4.5	0.2
	3	問題解決	職員は、保護者が悩みや困りごとを抱えている時に、解決策を一緒に考えてくれた	4.6	4.3	0.4
運営内容	4	情報発信	この施設は、おたよりなどを通じて有益な情報を正確・迅速に発信していた	4.7	4.5	0.2
	5	負担軽減	この施設は、保護者の負担が軽くなるように配慮していた	4.6	4.3	0.3
	6	清掃整頓	この施設は、清掃や整頓が行き届いていた	4.8	4.8	0.0
	7	安心安全	この施設は、お子様が安心・安全に過ごせる環境をつくっていた	4.6	4.6	0.1
	8	成長機会	この施設は、お子様の成長につながる機会をつくっていた	4.6	4.5	0.1
総合満足度	9	紹介意向	この施設を知り合いの保護者にも紹介したい	4.5	4.4	0.2



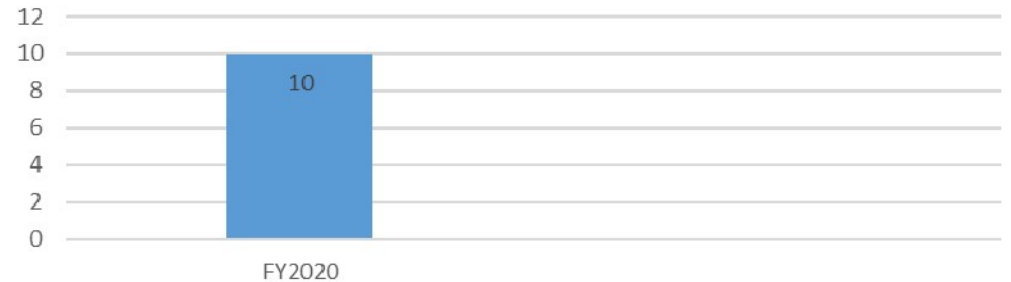
# アスイク保育園薬師堂前（仙台市小規模認可保育）

- 12名の定員に対して、年度末の登録園児数は10名となった。
- コロナ禍での開園となり、様々な対応が求められる中、予測が難しい場面も多かったが、取り組み可能な範囲で地域資源の発掘や行事の実施など、柔軟な対応を行うことができた。

## 保育目標

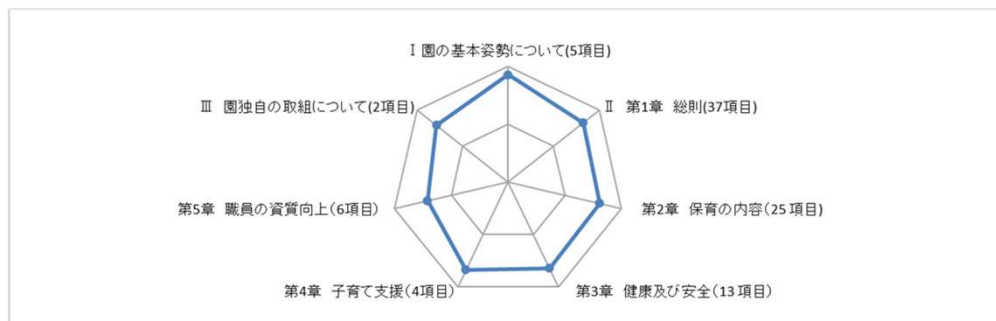
保育理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な関係性の中で、子どもを育む。</li> <li>○子どもの最善の利益を尊重し、改善し続ける。</li> <li>○子どもだけではなく、家庭も支える。</li> </ul>
保育方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一律的なかわりではなく、発達過程に応じた個別対応をします。</li> <li>○子どもの安全・快適な環境づくりに努めます。</li> <li>○子どもをありのままに受容し、自尊心の醸成に努めます。</li> <li>○様々な人とのかわりの中で、子どもの社会性を育みます。</li> <li>○様々な物事への興味、感受性、表現力を育みます。</li> </ul>

## 登録園児推移



## 自己評価

評価	項目ごとの回答数				項目ごとの回答率			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×
I 園の基本姿勢について(5項目)	3	14	13	0	10%	47%	43%	0%
II 第1章 総則(37項目)	0	111	107	4	0%	50%	48%	2%
第2章 保育の内容(25項目)	0	72	74	4	0%	48%	49%	3%
第3章 健康及び安全(13項目)	0	37	41	0	0%	47%	53%	0%
第4章 子育て支援(4項目)	0	12	12	0	0%	50%	50%	0%
第5章 職員の資質向上(6項目)	0	11	24	1	0%	31%	67%	3%
III 園独自の取組について(2項目)	0	5	7	0	0%	42%	58%	0%



## 利用者満足度調査

### 集計単位

アスイク保育園 薬師堂前園

### <読み方の注意点>

- 得点の高い低いだけを見るのではなく、数字が表している状況を考えて読んでください。
- 領域平均は、各領域に紐づく要素の得点を平均した数字です。
- 各要素の得点は、回答者の回答(1~5)の平均です。3.5以上: 緑、4.0以上: 青、2.5以下: 赤に色付けされています。

### 領域平均

	当該集計単位	全社	全社との比較
(回答者数)	8	65	
職員の対応	4.3	4.5	-0.2
運営内容	4.6	4.5	0.0
総合満足度	4.4	4.4	0.0

### 項目得点

領域	No.	要素	設問	当該集計単位	全社	全社との比較
職員の対応	1	マナー	職員のあいさつや言葉遣いなどのマナーはきちんとしていた	4.5	4.7	-0.2
	2	関係構築	職員は、保護者が気軽に相談しやすい関係をつくっていた	4.5	4.5	0.0
	3	問題解決	職員は、保護者が悩みや困りごとを抱えている時に、解決策と一緒に考えてくれた	4.0	4.3	-0.3
運営内容	4	情報発信	この施設は、おたよりなどを通じて有益な情報を正確・迅速に発信していた	4.5	4.5	0.0
	5	負担軽減	この施設は、保護者の負担が軽くなるように配慮していた	4.1	4.3	-0.2
	6	清掃整頓	この施設は、清掃や整頓が行き届いていた	4.6	4.8	-0.2
	7	安心安全	この施設は、お子様が安心・安全に過ごせる環境をつくっていた	4.8	4.6	0.2
	8	成長機会	この施設は、お子様の成長につながる機会をつくっていた	4.8	4.5	0.3
総合満足度	9	紹介意向	この施設を知り合いの保護者にも紹介したい	4.4	4.4	0.0

- ・ コロナ禍での開館となり、当初からイレギュラーな運営が続いたが、大きなトラブルもなく無事に開館1年目を乗り切ることができた。
- ・ 地域連携や特に困難を抱える子どもへの対応力の強化を通してアスイクらしい児童館を作り上げていくことは、今後も継続的に取り組むべきである。

## 保育目標

### ・ 社会ではぐくむ

地域の住民や県内外の企業などと協働し、子どもたちが多様な関係の中で、さまざまな価値観や情報に触れながら育つことができる環境づくりを大切にします。

### ・ 地域で見守る

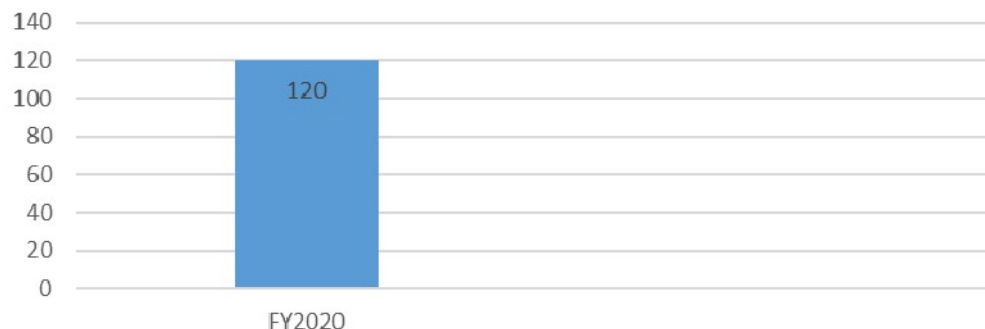
子どもや保護者と信頼関係を築くことを通して、外からは見えにくい困り事を拾い上げ、様々な社会資源と連携しながら支えることで、家庭が抱える課題が深刻化する前に対応できる地域をつくります。地域の子どもたちを、乳幼児期から大人になるまで見守る中心的な役割を担う施設になることを目指します。

### ・ 特に困難を抱える子どもの受け止めを大切にす

これまで被災、貧困、不登校、障がいなどの困難を抱える子どもたちと保護者をサポートしてきたノウハウや関係機関とのネットワークを生かし、支援が必要な子ども・家庭との関わりを特に重視します。



## 児童クラブ登録児童数推移



## 利用者満足度調査

### ■ 集計単位

荒井児童館

### < 読み方の注意点 >

・ 得点の高い低いだけを見るのではなく、数字が表している状況を考えながら読んでください。  
 ・ 領域平均は、各領域に紐づく要素の得点を平均した数字です。  
 ・ 各要素の得点は、回答者の回答（1～5）の平均です。3.5以上：緑、4.0以上：青、2.5以下：赤に色付けされています。

### ■ 領域平均

	当該集計単位	全社	全社との比較
(回答者数)	46	65	
職員の対応	4.5	4.5	0.0
運営内容	4.5	4.5	0.0
総合満足度	4.3	4.4	0.0

### ■ 項目得点

領域	No.	要素	設問	当該集計単位	全社	全社との比較
職員の対応	1	マナー	職員のあいさつや言葉遣いなどのマナーはきちんとしていた	4.7	4.7	0.0
	2	関係構築	職員は、保護者が気軽に相談しやすい関係をつくっていた	4.5	4.5	-0.1
	3	問題解決	職員は、保護者が悩みや困りごとを抱えている時に、解決策を一緒に考えてくれた	4.2	4.3	0.0
運営内容	4	情報発信	この施設は、おたよりなどを通じて有益な情報を正確・迅速に発信していた	4.5	4.5	-0.1
	5	負担軽減	この施設は、保護者の負担が軽くなるように配慮していた	4.3	4.3	0.0
	6	清掃整頓	この施設は、清掃や整頓が行き届いていた	4.8	4.8	0.0
	7	安心安全	この施設は、お子様が安心・安全に過ごせる環境をつくっていた	4.5	4.6	-0.1
総合満足度	8	成長機会	この施設は、お子様の成長につながる機会をつくっていた	4.4	4.5	-0.1
	9	紹介意向	この施設を知り合いの保護者にも紹介したい	4.3	4.4	0.0

- 概ね目標値を達成することができた。
- コロナ禍の影響もあり、参加者数が伸び悩んでいるため、対策を講じる必要がある。

観点	要素	指標	定義	測定方法	実績	目標値
アウトプット	教室運営 (量的側面)	拠点開設数	何ヶ所の拠点(教室)を開設したか	---	20ヶ所	20ヶ所
		参加者数	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	278人	350人
		開催回数	延べ何回(日)の活動を行なったか	記録表による集計	1,846回	1900回
		開催時間	延べ何時間の活動を行なったか	記録表による集計	5,538時間	5700時間
	教室運営 (質的側面)	出席率	子どもがどれだけ継続的に参加したか	実際の参加日/参加申込日	70%	70%
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	24%	25%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	0%	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	255人	300人
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	3	4回
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	7	6プログラム
プログラム参加人数		何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	191人	90人	
保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	2,068件	800件	
	専門サポートへのつなぎ件数	面談の結果から、何件のケースを適切な専門サポートにつないだか	記録表による集計	408件	178件	
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数(中学3年生のみ)	99%	100%
		基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結果	英語:8.1点 数学:8.7点	英語:10点 数学:10点
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート (肯定回答割合)	69%	70%
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		69%	70%
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		70%	70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		76%	70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		64%	70%
	文化資本	進学への意欲	参加したことで、高校に進学しようという意識が生まれたか		77%	70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		70%	70%
		生活習慣の改善	参加したことで、規則正しい生活ができるようになったか		72%	70%
	社会への信頼 ロールモデル	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		65%	70%
		ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		73%	70%
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者:50% 保護者:72%	参加者:70% 保護者:70%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか		72%	70%
	保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか	保護者アンケート	79%	70%
		存在の受容	一人一人が大切にされたと感じているか	参加者アンケート	82%	70%
	満足度	活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者:94% 保護者:93%	参加者:90% 保護者:90%
サポートへの満足度		スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか	参加者:92% 保護者:80%		参加者:90% 保護者:90%	

- 拠点への参加者が目標を大きく上回った。
- 食料支援の影響により、訪問支援の件数が大きくなった。
- 中退率は目標値を下回ったが、中退者の社会への接続率を向上させるのが今後の課題である。

観点	要素	指標	定義	測定方法	実績	目標値
アウトプット	教室運営 (量的側面)	拠点開設数	何ヶ所の拠点(教室)を開設したか	---	3ヶ所	3ヶ所
		参加者数(拠点)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	153人	120人
		参加者数(訪問支援)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	36人	2人
		サポート参加延人数	延べ何人がサポートに参加したか	記録表による集計	2,083人	2600人
	ボランティア	研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	3回	3
	体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	7	6プログラム
		プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	55人	120人
保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	802件	276件	
	専門サポートへのつなぎ件数	面談の結果から、何件のケースを適切な専門サポートにつないだか	記録表による集計	272件	61件	
アウトカム	学力・学歴	高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数(高校年代)	2%	3%
		高校中退者の社会的自立率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	44%	100%

- ・ 参加人数、出席率が目標値を大きく上回った。
- ・ また、子どものアンケート結果も良好で、ほぼ肯定的な回答となった。

観点	要素	指標	定義	測定方法	実績	目標値	
アウトプット	教室運営 (量的側面)	拠点開設数	何ヶ所の拠点(教室)を開設したか	---	1ヶ所	1ヶ所	
		参加者数(拠点)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	55人	40人	
		参加者数(訪問支援)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	17人	2人	
		開催回数	延べ何回(日)の活動を行なったか	記録表による集計	187回	200回	
		開催時間	延べ何時間の活動を行なったか	記録表による集計	561時間	600時間	
	教室運営 (質的側面)	出席率	子どもがどれだけ継続的に参加したか	実際の参加日/参加申込日	79.7%	70%	
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	18%	20%	
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	0%	2.5%	
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	12人	10人	
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	3回	4回	
体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	5	6プログラム		
	プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	14人	30人		
保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	327件	90件		
	専門サポートへのつなぎ件数	面談の結果から、何件のケースを適切な専門サポートにつないだか	記録表による集計	25件	10件		
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数(中学3年生のみ)	100%	100%	
		高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数(高校年代)	2%	3%	
		高校中退者の社会的自立率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	100%	100%	
		基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結果	英語:4.5点 数学:4.9点	英語:10点 数学:10点	
	自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート (肯定回答割合)	95%	70%	
		努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		95%	70%	
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		81%	70%	
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		86%	70%	
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		85%	70%	
		文化資本	進学への意欲		参加したことで、進学しようという意識が生まれたか	81%	70%
	健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		100%	70%	
		生活習慣の改善	参加したことで、登校日数が増えたり、規則正しい生活ができるようになったか		67%	70%	
	社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		86%	70%	
		ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		95%	70%	
	保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか		参加者アンケート・保護者アンケート	参加者:80% 保護者:71%	参加者:70% 保護者:70%
		将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか			75%	70%
保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか	保護者アンケート		75%	70%	
	存在の受容	一人一人が大切にされたと感じているか	参加者アンケート		100%	70%	
満足度	活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート・保護者アンケート		参加者:100% 保護者:100%	参加者:90% 保護者:90%	
	サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか			参加者:100% 保護者:87%	参加者:90% 保護者:90%	

# 宮城県子どもの学習・生活支援事業（南部・北部）

- 概ね目標値を達成することができた。
- 食料支援の影響により、訪問支援の件数が大きくなった。

観点	要素	指標	定義	測定方法	2020年度実績	目標値
アウトプット	教室運営 (量的側面)	拠点開設数	何ヶ所の拠点(教室)を開設したか	---	11ヶ所	11ヶ所
		参加者数(拠点)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	178人	220人
		参加者数(訪問支援)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	26人	8人
		開催回数	延べ何回(日)の活動を行なったか	記録表による集計	518回	528回
		開催時間	延べ何時間の活動を行なったか	記録表による集計	1554時間	1,584時間
	教室運営 (質的側面)	出席率	子どもがどれだけ継続的に参加したか	実際の参加日/参加申込日	78%	70%
		休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	27%	25%
		途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	0%	2.5%
	ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	39人	24人
		研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	3回	4回
体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	5	6	
	プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	19人	90人	
保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	1,626件	368件	
	専門サポートへのつなぎ件数	面談の結果から、何件のケースを適切な専門サポートにつないだか	記録表による集計	154件	82件	
アウトカム	学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数(中学3年生のみ)	96%	100%
		高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数(高校年代)	1%	3%
		高校中退者の社会的自立率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	100%	100%
	自尊心・意欲	基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結果	英語:10.4点 数学:3.9点	英語:10点 数学:10点
		学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート (肯定回答割合)	82%	70%
	努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか	76%		70%	
	ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		76%	70%
		コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		79%	70%
	福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		72%	70%
		文化資本	進学への意欲		参加したことで、進学しようという意識が生まれたか	69%
健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか	77%		70%	
	生活習慣の改善	参加したことで、登校日数が増えたり、規則正しい生活ができるようになったか	76%		70%	
社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか	69%		70%	
	ロールモデル	ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		81%	70%
保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者:61% 保護者:67%	参加者:70% 保護者:70%	
	将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか		66%	70%	
保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか	保護者アンケート	69%	70%	
	存在の受容	一人一人が大切にされたと感じているか	参加者アンケート	96%	70%	
満足度	活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者:95% 保護者:93%	参加者:90% 保護者:90%	
	サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかかわり方や信頼関係の構築ができたか		参加者:94% 保護者:73%	参加者:90% 保護者:90%	

- 利用者が当初の計画の2倍近い人数になっており、関係機関からリファーされるヘビーケースも増加している。
- 目標値に関しては、概ね計画通り遂行することができた。

要素	指標	定義	測定方法	実績	目標値
教室運営 (量的側面)	拠点開設数	何ヶ所の拠点(教室)を開設したか	---	1ヶ所	1ヶ所
	参加者数(拠点)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	37人	20人
	参加者数(訪問支援)	何人の対象者が参加したか	参加者リストへの記録	---	---
	開催回数	延べ何回(日)の活動を行なったか	記録表による集計	142回	100回
	開催時間	延べ何時間の活動を行なったか	記録表による集計	426時間	300時間
教室運営 (質的側面)	出席率	子どもがどれだけ継続的に参加したか	実際の参加日/参加申込日	75.2%	70%
	休止率	どの程度の参加者が途中で休止したか	参加者リストへの記録	32%	25%
	途中退会率	どの程度の参加者が途中で退会したか	参加者リストへの記録	5%	2.5%
ボランティア	参加ボランティア数	何人のボランティアが参加したか	ボランティアリストによる集計	13人	10人
	研修会開催回数	ボランティア・スタッフ向けのフォローアップ研修会を何回開催したか	記録表による集計	3回	4回
体験プログラム	プログラム開催回数	体験プログラムをいくつ開催したか	記録表による集計	5	6プログラム
	プログラム参加人数	何人の子どもがプログラムに参加したか	記録表による集計	9人	30人
保護者支援	保護者の面談件数	保護者に対して、何件の面談を行なったか	記録表による集計	354人	46件
	専門サポートへのつなぎ件数	面談の結果から、何件のケースを適切な専門サポートにつないだか	記録表による集計	47件	10件
学力・学歴	高校進学率	どの程度の割合が高校に進学したか	高校進学者数/参加者数(中学3年生のみ)	100%	100%
	高校中退率	どの程度の割合が高校を中退したか	中退者数/登録者数(高校年代)	6%	3%
	高校中退者の社会的自立率	中退した高校生の何割が教育機関、就労支援機関、福祉施設等の社会資源につながったか	社会資源へのつなぎ数/中退者数	0%	100%
	基礎学力	参加者の基礎学力がどの程度高まったか	参加時の学力診断テストの結果/期末時点の学力診断テストの結果	英語: 1.4点 数学: -1.4点	英語: 10点 数学: 10点
自尊心・意欲	学習意欲	参加したことで、学習、自己成長に対する意欲が高まったか	参加者アンケート (肯定回答割合)	72%	70%
	努力意欲	参加したことで、努力したら報われるという意識が高まったか		72%	70%
ソーシャルスキル	社会規範	参加したことで、ルールやマナーを守る意識が高まったか		77%	70%
	コミュニケーション力	参加したことで、多様な人とコミュニケーションする自信が高まったか		77%	70%
福祉依存	自立への意欲	参加したことで、経済的な自立をしようという意識が高まったか		78%	70%
文化資本	進学への意欲	参加したことで、進学しようという意識が生まれたか		78%	70%
健康状態・生活リズム	精神状態の改善	参加したことで、学校や生活の悩みが軽くなったか		71%	70%
	生活リズムの改善	参加したことで、生活リズムが改善したか		69%	70%
社会への信頼	他者への信頼	参加したことで、人や社会への信頼感が高まったか		55%	70%
ロールモデル	ロールモデル	スタッフやボランティアなどに、目標やあこがれとなる人が見つかったか		78%	70%
保護者との関係	関係性	参加したことで、親子の関係性が良くなったか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者: 47%	参加者: 70%
	将来の話し合い	参加したことで、将来について話し合う機会が増えたか		保護者: 100%	保護者: 70%
保護者のストレス	子育てのストレス	参加したことで、子育ての負担感が減ったか	保護者アンケート	88%	70%
	存在の受容	一人一人が大切にされたと感じているか		84%	70%
満足度	活動への満足度	参加してよかったと感じているか	参加者アンケート・保護者アンケート	参加者: 95%	参加者: 90%
	サポートへの満足度	スタッフ・ボランティアは適切なかわり方や信頼関係の構築ができたか		保護者: 100%	保護者: 90%
				参加者: 89%	参加者: 90%
			保護者: 75%	保護者: 90%	



- コロナ禍による休校期間中にZOOMを活用したオンライン教室を開催したが、学校再開後も感染によるリスクが高い子どもや送迎手段がない、家から出られないなどの事情を抱えた子どものために継続開催した。
- 年度末の利用者数は8名にとどまったが、受け入れ枠を増やし、積極的に周知すれば利用者数は増加することが見込まれる。

エリア	7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	登録者数	延利用者数	
青葉区	1	3	1	10	1	10	1	10	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太白区	1	4	1	7	1	2	2	7	2	10	2	15	2	16	2	15	2	18	2
若林区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	4	1	2	1	2	1	3	1
宮城野区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泉区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
仙台市合計	2	7	2	17	2	12	3	17	4	17	3	19	3	18	3	17	3	21	3
北部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	7	1
仙南	0	0	0	0	0	0	2	9	2	11	2	9	3	15	3	12	3	11	3
宮城黒川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	2	1	0	1
宮城県合計	0	0	0	0	0	0	2	9	2	11	3	9	4	18	5	16	5	18	5
岩沼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	7	2	17	2	12	5	26	6	28	6	28	7	36	8	33	8	39	8

# ふれあい広場サテライト

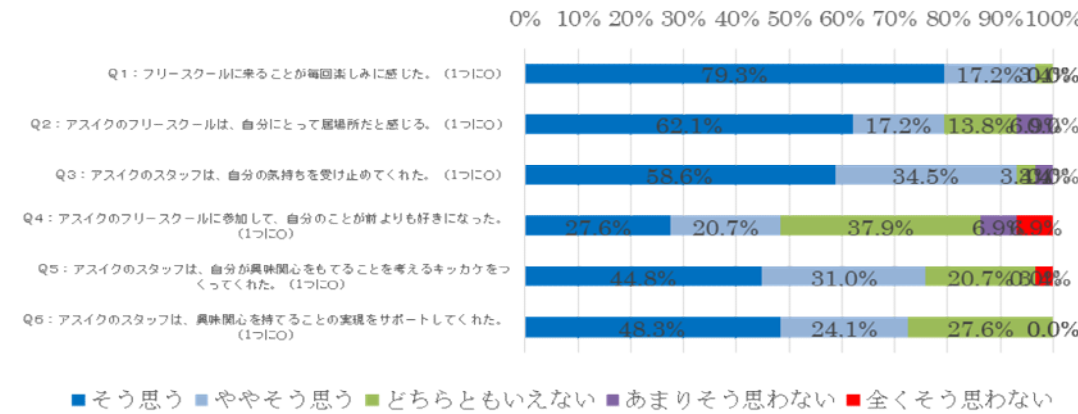
- 2019年度から継続して、仙台市市民協働事業提案制度を活用し、これまで自主事業として運営してきたフリースクールを仙台市子供相談支援センターが運営するふれあい広場のサテライト拠点として協働して運営した。
- コロナ禍での開催となったが、登録者数は過去最高となり、懸案であった長町・泉中央拠点の利用者も増加した。アンケート結果では、前年度課題となっていた「興味関心を持てることの発見」が改善。また、登録者の90%近くに何らかのポジティブな変化が見られる結果となった。

## 実施概要

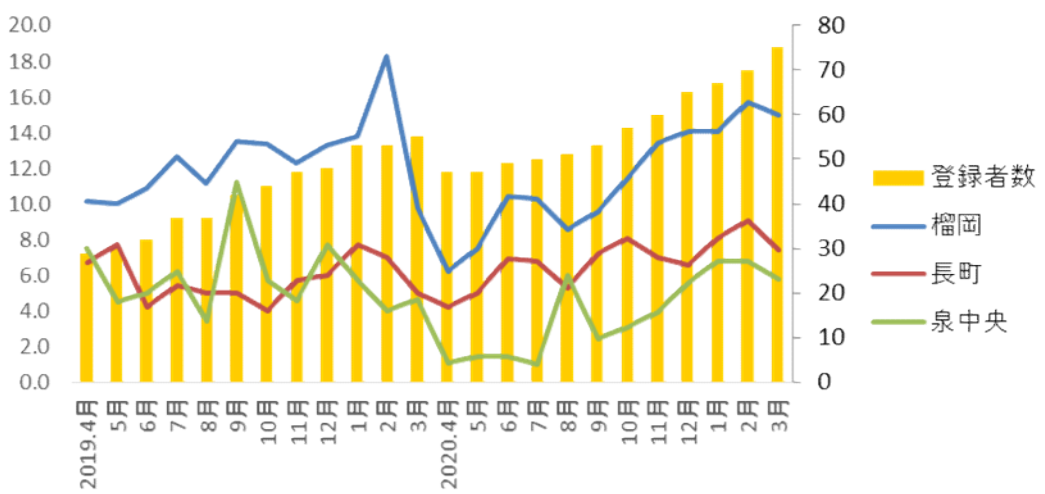
- 内容：**  
不登校・中退などの子どもたちの居場所運営（生活習慣を整えるサポート、社会性を身に付けるサポート、キャリアを考えるサポート）
- 場所/曜日：**  
榴岡/火・木、長町/水・金、泉中央/水・金
- 対象：**小学生から概ね20歳程度

## 年度末アンケート結果

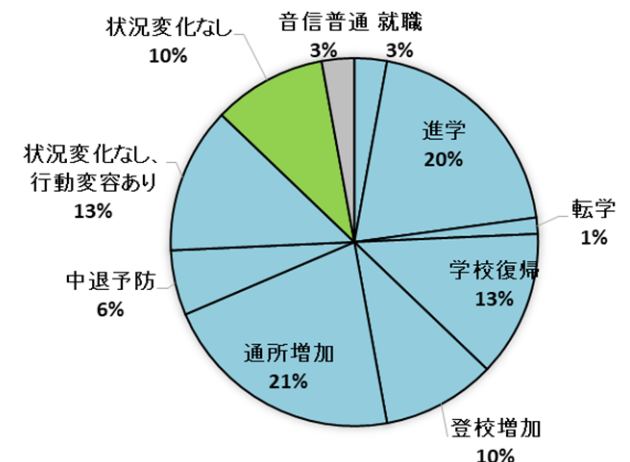
2020年度 利用者アンケートの結果 (N=29)



登録者数・各拠点1日当たり利用者数の推移



登録者の参加後の状態



# 緊急食料支援×見守りプロジェクト

- コロナ禍による減収等の問題に対応するため、毎月米・レトルト等の食品を学習・生活支援事業の利用者を対象に提供。一部の世帯には相談支援スタッフが直接届け、保護者の相談支援等を実施した。
- 食品希望のアンケートに合わせ、現状を把握することを目的としたアンケートを行い、継続的に社会へ発信した。

## 実施結果

年月	食品提供家庭数 単位:件	内訪問支援による提供件数 単位:件	支出額 (食品・郵送料・梱包資材) 単位:円
2020年3月	230	59	1,671,598
4月	315	58	1,271,132
5月	316	70	1,245,053
6月	314	24	1,399,831
7月	297	45	1,251,167
8月	312	51	1,334,419
9月	306	50	1,240,348
10月	326	46	1,433,102
11月	342	56	1,349,991
12月	358	33	1,539,162
1月	369	53	1,546,634
2月	376	63	1,576,293
3月	382	65	1,575,167
合計	4,243	673	18,433,897

## ご家庭からのコメント

- ✓ 「お米やレトルト食品沢山ありがとうございます。本当に本当に助かりました。先が見えず、食費や光熱費も掛かり毎日大変な生活をしています。アスイクさんのような支援本当に嬉しいです。本当にありがとうございます。」
- ✓ 「本日ご支援いただきました食品が届きました！息子たちはすごいすごいとお米を抱えて喜びのダンスをしていました。自分でも調理できるご配慮が嬉しいです。」

## 現状調査

- ✓ 「新型コロナウイルスの感染拡大による生活困窮家庭への影響」  
2020年4月
- ✓ 同上（第2報） 2020年7月
- ✓ 同上（第3報） 2020年9月
- ✓ 同上（第4報） 2020年11月
- ✓ 同上（第5報） 2021年1月
- ✓ 同上（第6報） 2021年3月



# 要保護児童等見守り強化事業（わくデリ）

- ・ 涌谷町子育て支援室と協働し、要対協のケースを中心とした要保護児童に対して、食品提供を通じたアウトリーチを開始した。
- ・ 2020年度は16世帯（児童数33名）に対して隔週～毎週のペースで訪問し、アセスメントシートをもとに涌谷町と定期的な情報共有を行った。

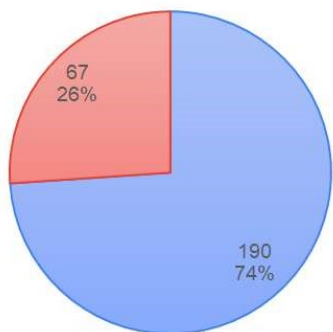
		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
対象世帯No.	児童実数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数	延訪問件数	延児童数
1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	14	14
2	1		0	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	14	14
3	1		0	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	14	14
4	4		0	3	12	2	8	2	8	2	8	2	8	1	4	12	48
5	3		0	5	15	3	9	4	12	3	9	2	6	2	6	19	57
6	2	1	2	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4	13	26
7	3	1	3	3	9	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6	14	42
8	1		0	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	14	14
9	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	1	1	10	10
10	3			2	6	2	6	1	3	2	6	1	3	2	6	10	30
11	2			2	4	1	2	3	6	2	4	2	4	2	4	12	24
12	3					1	3	2	6	2	6	2	6	2	6	9	27
13	2					2	4	2	4	2	4	2	4	3	6	11	22
14	2						0		0		0	2	4	2	4	4	8
15	1						0		0		0		0	1	1	1	1
16	3						0		0		0		0	1	3	1	3
合計	<b>33</b>	4	7	30	63	25	52	27	58	26	56	27	55	33	63	<b>172</b>	<b>354</b>

# 2月13日の地震で経済的な被害を受けたひとり親家庭などへの支援金

- 2月13日の福島県沖地震を受け、当法人がつながりのあるひとり親世帯などにアンケートを実施した結果、1/4が経済的な被害を受け、約半数が精神面での影響を受けていることが明らかになった。（東日本大震災の影響も多い）
- そのため、緊急支援金として寄付を募り、58世帯に対して1世帯あたり10,000円を提供した。

## アンケート結果

### 経済的な被害の有無

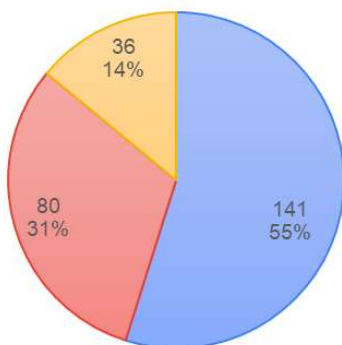


■なかった ■あった

### 被害額

平均値：79,537円  
 中央値：50,000円  
 最高額：1,000,000円  
 最低額：1,000円

### 精神面での影響の有無



■影響はない ■子どもに影響があった ■保護者に影響があった

## 緊急支援金の実施

### 企画概要

#### <趣旨・目的>

2月13日の地震によって、コロナ禍などによる経済的な困窮状態に追い打ちをかけるように、さらに経済的な被害を受けたひとり親家庭などに対して、被害額を補填すると同時に、社会が見守っているというメッセージを伝える。

#### <支援金の対象>

NPO法人アスイクが自治体と協働で実施している学習・生活支援事業に登録している生活保護世帯、ひとり親家庭などの内、地震による被害を受けた家庭

#### <寄付募集期間>

2021年2月19日～3月11日  
 ※当初の3月5日から募集期間を延期しました。

#### <寄付額>

697,049円(32名)

#### <支援金の額>

一律10,000円/家庭

### 収支報告

費目	金額	内訳
支援金	580,000円	58世帯 ※当初の申し込み世帯は59世帯でしたが、ご事情により1世帯辞退されました。
管理費 (振込手数料等)	117,049円	寄付額の16.8% ※寄付募集時の管理手数料20%よりも下げさせていただきました。
支出計	697,049円	

## 講演・講師

- ◆ 宮城県主任児童委員研修会（吉田）
- ◆ 塩竈市不登校連絡協議会（伊藤）
- ◆ Tagajo Sustainable Relationship2020（紺野）
- ◆ 宮城県スクールソーシャルワーカー連絡協議会（平泉）

- ◆ 松島町主任児童委員研修会（吉田）
- ◆ 東北大学経済学部 ゲスト講師（大橋）
- ◆ 東北教育学会第77回大会シンポジウム パネリスト（大橋）

## メディア

- ◆ 河北新報 4月27日 「母子家庭「生活成り立たぬ」2割
- ◆ 東日本放送「チャージ」4月28日
- ◆ NHK「ウィークエンド東北」5月30日
- ◆ NHK「てれまさむね」6月17日
- ◆ 朝日新聞 6月24日 仙台の活動団体施設、再開へ指針
- ◆ 河北新報 7月8日 「こどものたより場 応援プロジェクト」
- ◆ NHK「おはようみやぎ」 7月の保護者アンケート
- ◆ 河北新報 9月1日 「311『伝える/備える』次世代塾」
- ◆ 河北新報 9月7日夕刊 「ウオロな世界」
- ◆ 河北新報 10月5日 仙台の学習塾が模擬受験料寄付
- ◆ 「地域支え合い情報 vol.89」 10月20日発行
- ◆ Yahoo!ニュース 11月17日
- ◆ 河北新報 12月2日 困窮家庭に食料を 支援事業延長へ 仙台のNPOがクラウドファンディング
- ◆ 西日本新聞 12月6日 高校生が動画で寄付呼びかけ
- ◆ NHK「てれまさむね」 12月22日
- ◆ 宮城県「みやぎの未来の子どもの未来」
- ◆ 河北新報 2月20日 支援家庭26%経済的被害
- ◆ NHK ニュース 2月13日の地震による被害状況のアンケート結果

## 執筆等

- ◆ 日本ソーシャル・イノベーション学会  
（東北大学経済学部の西出先生とゼミ生の報告論文）

